



特別展 文明の十字路

2024 9/14 (土)

↓
11/12 (火)

バーミヤン大仏の 太陽神と 彌勒信仰

—ガンダーラから
日本へ—

Special Exhibition:
The Crossroads of Civilization
The Bamiyan Giant Buddhas
Sun God and Maitreya Beliefs
from Gandhara to Japan

PRESS RELEASE

三井記念美術館
Mitsui Memorial Museum

2024.7.1

特別展 文明の十字路口

バーミヤン大仏の太陽神と弥勒信仰
—ガンダーラから日本へ—

特別展 文明の十字路口

展覧会名 バーミヤン大仏の太陽神と弥勒信仰 —ガンダーラから日本へ—

Special Exhibition: The Crossroads of Civilization

The Bamiyan Giant Buddhas

Sun God and Maitreya Beliefs from Gandhara to Japan

会期 2024年9月14日(土)～11月12日(火) ※会期中、展示替えを行います。

開館時間 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日 9月24日(火)、9月30日(月)、10月7日(月)、10月15日(火)、10月21日(月)、
10月28日(月)、11月5日(火)。

主催 三井記念美術館、読売新聞社

入館料 一般1,500(1,300)円／大学・高校生1,000(900)円／中学生以下無料

※70歳以上の方は1,200円(要証明)。

※20名様以上の団体の方は()内割引料金となります。

※リピーター割引:会期中一般券、学生券の半券のご提示で、2回目以降は()内割引料金となります。

※障害者手帳をご提示いただいた方、およびその介護者1名は無料です(ミライカードも可)。

会場 三井記念美術館 / Mitsui Memorial Museum

[〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7階]

東京メトロ銀座線「三越前」駅A7出口徒歩1分／東京メトロ半蔵門線「三越前」駅徒歩3分A7出口徒歩1分／

東京メトロ銀座線・東西線「日本橋」駅B9出口徒歩4分／

メトロリンク日本橋(無料巡回バス)乗降所「三井記念美術館」徒歩1分

読者からの
お問い合わせ先 050-5541-8600 (ハローダイヤル)ホームページ <https://www.mitsui-museum.jp>

特別講演会 2024年10月5日(土) 13:00～16:20(予定)

「ガンダーラからバーミヤンへ—釈迦・転輪聖王・太陽神ミスラ・弥勒の信仰と美術—」

講師:宮治 昭氏(名古屋大学名誉教授)

「日本の弥勒信仰と仏画」

講師:有賀 祥隆氏(東北大学名誉教授)

会場:野村コンファレンスプラザ日本橋・5階大ホール

(東京都中央区日本橋室町2-4-3 日本橋室町野村ビル[YUITO]5階)

※事前申し込み要。申し込み方法など詳細については、当館ホームページをご覧ください。

音声ガイド 音声ガイドでわかりやすく解説いたします(日本語のみ、貸出料700円)。

ナビゲーター 保志 総一郎氏(声優・歌手)

アニメ『機動戦士ガンダムSEED』(キラ・ヤマト役)、TVアニメ『異修羅』(鶴のダカイ役)

をはじめ、アニメ、ゲーム、洋画吹き替えのほか、ラジオ、CMなど幅広く活躍。

企画・制作:株式会社カセットミュージアム



*開催内容を変更する場合がありますので、最新の情報は、当館ホームページまたはハローダイヤルにてご確認ください。また、展示室内の混雑を避けるため入場制限を行う場合があります。

報道関係の方からの
お問い合わせ先三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp

展覧会の趣旨

バーミヤン遺跡は、アフガニスタンの中央部を東西に走るヒンドークシュ山脈の中にあります。この地域は、古くからユーラシア各地の文化が行き交う「文明の十字路」とも呼ばれています。溪谷の崖に多くの石窟が掘られ、その中に東西二体の大仏がそびえていました。大仏の周囲壁面には「太陽神」と「弥勒」の姿が描かれていました。

本展覧会は、東西二体の大仏を原点とする太陽神と弥勒の世界に迫り、特に「未来仏」である弥勒信仰の流れを、インド・ガンダーラの彫刻と日本の法隆寺など奈良の古寺をはじめ各所に伝わる仏像、仏画等の名品でたどります。

バーミヤンの大仏と壁画は、2001年3月にイスラム原理主義組織・タリバンによって破壊されてしまいましたが、破壊以前に行われた調査時のスケッチと写真によって、このたび壁画の描き起こし図が新たに完成しましたので、東京にて初公開いたします。

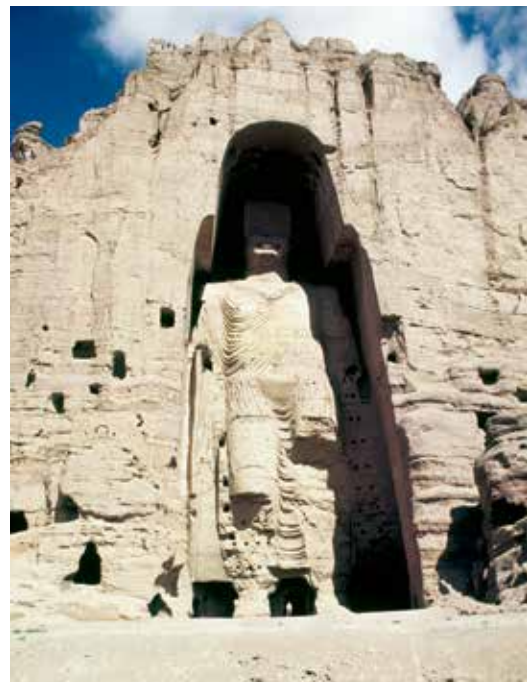
バーミヤン遺跡とは

バーミヤン遺跡は、アフガニスタンの首都・カブールから西北西に約120km、標高2500mの高地にあります。約1.3kmにわたる崖には、東西に高さ38mの「東大仏」と高さ55mの「西大仏」がそびえ立ち、800近い石窟群が掘られていました。また、バーミヤンの地は、6世紀頃から交通の要所となり、多様な人々や文化が行き交い独自の文化が生まれ、「文明の十字路」とも称されています。



[図1]

バーミヤン大磨崖窟全景 2000年 (撮影:菅沼隆二)



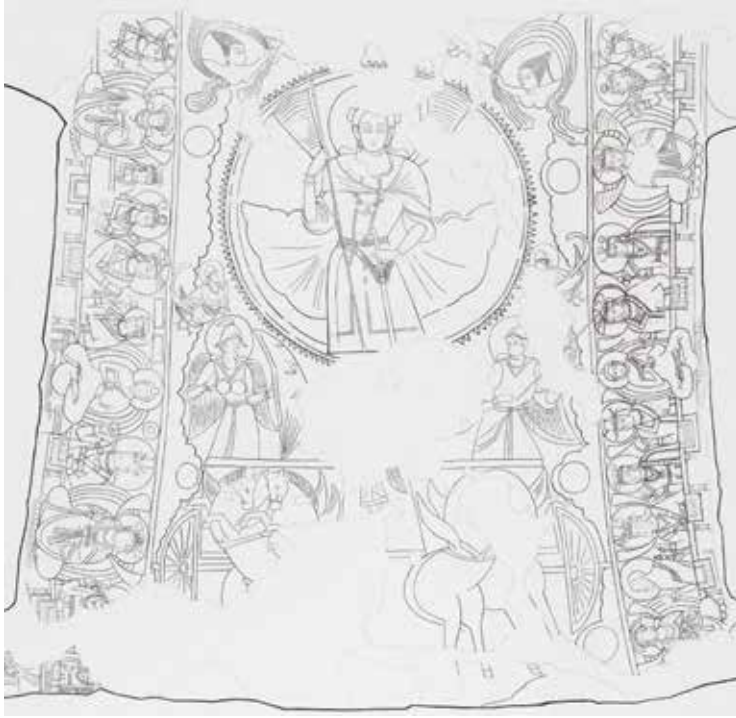
[図2]

破壊前のバーミヤン西大仏 (画像提供:京都大学人文科学研究所)

《展示構成と作品》

*: 広報用画像貸出作品

東京初公開!!



[図3] *

パーミヤン東大仏龕天井壁画 描き起こし図(部分)
宮治昭監修・正垣雅子筆 2022年 龍谷ミュージアム

東西二体の
大仏と壁画の
描き起こし図

(展示室4)

パーミヤン遺跡の東西大仏の周囲には、壁画が描かれていました。東大仏の頭上には、ゾロアスター教の太陽神・ミスラの姿、一方西大仏の周囲には、弥勒が住まう兜率天の様子が描かれていたと考えられています。壁画は大仏とともに破壊されてしまいましたが、破壊前に行われた調査での写真・スケッチをもとに、新たに10分の1縮尺の描き起こし図が完成しました。本展覧会では、それら描き起こし図を東京にて初公開いたします。

玄奘三蔵と
『大唐西域記』(展示室4)

『西遊記』の三蔵法師のモデルとしてよく知られている、唐の仏教僧・玄奘(602~664)。玄奘は、20年近くにわたり中央アジアからインドへ旅をしましたが、インドに経典の原典を求めて旅する途中、630年頃にパーミヤンに滞在し、大仏の姿も実際に目撃しています。玄奘の旅行記である『大唐西域記』には、二体の大仏を含めパーミヤンの信仰の様子が書かれています。

[図4]

重要文化財 玄奘三蔵像
鎌倉時代・13~14世紀
東京国立博物館(Image : TNM Image Archives)
〔展示:9/14~9/27〕

太陽神の信仰 (展示室1・3)

東大仏の頭上に描かれていたのは、ゾロアスター教の太陽神・ミスラであるという説が有力視されています。インド地域においても、ミスラと同じ語源を持つミトラ神が古くから存在していましたが、紀元前2世紀頃にギリシアの太陽神・ヘリオスの図像がインドに伝わってからは、スーリヤが太陽神として後世まで信仰されました。本展覧会では、こうした太陽神の様々な姿や太陽神と仏教の関わりについてご紹介します。



【図5】*
スーリヤ柱頭 2~3世紀 平山郁夫シルクロード美術館



【図6】*
スーリヤ像 4~6世紀 龍谷ミュージアム



【図7】*
奉獻小塔 2~3世紀
平山郁夫シルクロード美術館

アジアの弥勒信仰 (展示室4・5)

玄奘が『大唐西域記』にてバーミヤン東大仏を「釈迦仏」と明言しているのに対し、西大仏の尊名については触れられておらず不明でしたが、壁画の内容から「弥勒仏」であった可能性が明らかとなりました。

「弥勒」とは、現在兜率天に住まい、釈迦入滅後の56億7千万年後にこの世に下生するという、いわば未来の救世主です。弥勒は2~3世紀頃のガンダーラの地域において既に信仰され、その後バーミヤンを含む中央アジア、そして中国・朝鮮半島へと広がりを見せました。本展覧会では、弥勒信仰の源流とアジアへの広がりについてご紹介します。



【図8】*
弥勒菩薩交脚像 2~3世紀
平山郁夫シルクロード美術館



【図9】*
弥勒菩薩立像 3~4世紀



【図10】*
菩薩半跏思惟像 東魏・武定2年(544)
台東区立書道博物館

日本の弥勒信仰 (展示室2・7)

ガンダーラ・中央アジアで発展した弥勒信仰は、中国・朝鮮を経て日本にも伝わりました。6世紀の仏教伝来当初より弥勒の存在が重視されていたことが知られ、特に奈良時代に発展した法相宗の寺院では弥勒信仰が盛んとなりました。

また、平安時代後期以降も未来仏である弥勒信仰は一層の高まりを見せ、上生・下生信仰のほか、密教や阿弥陀信仰とも関連を持ちながら独自の展開を遂げました。本展覧会では、こうした日本の弥勒信仰を背景に生み出された仏像や絵画などを通して、様々な弥勒の姿をご覧ください。



〔図11〕*
重要文化財
弥勒菩薩半跏像
白鳳時代・天智5年(666)
大阪・野中寺



〔図12〕
如意輪観音半跏像
平安時代・11世紀
大阪・四天王寺



〔図13〕
重要文化財
弥勒菩薩坐像
平安時代・9世紀
奈良・法隆寺
(画像提供:小学館)



〔図14〕
弥勒菩薩立像
鎌倉時代・12~13世紀
和歌山・霊現寺
(画像提供:和歌山県立博物館)



〔図15〕*
弥勒菩薩立像
鎌倉時代・13世紀



〔図16〕
重要文化財
弥勒曼荼羅
鎌倉時代・13世紀
東京・靈雲寺
〔展示:10/16~11/12〕
(画像提供:東京国立博物館
Image: TNM Image Archives)



〔図17〕
重要文化財
弥勒菩薩来迎図
鎌倉時代・13世紀
東京藝術大学大学美術館
〔展示:10/16~11/12〕



〔図18〕
弥勒菩薩像
南北朝時代・14世紀
奈良・法隆寺
〔展示:9/14~10/14〕

弥勒に関する経典と図像 (展示室5)

弥勒は様々な経典に登場しています。弥勒の上生・下生信仰を説いた「弥勒六部経」のほか、『法華経』類には弥勒が住む兜率天への往生と、阿弥陀如来が住む阿弥陀浄土への往生が説かれています。本展覧会では、弥勒の信仰・造像に影響を与えた経典や、様々な弥勒の像容を収めた図像などをご覧ください。



〔図19〕*
妙法蓮華経 卷第七 上元3年(676) 三井記念美術館



〔図20〕
重要文化財 弥勒菩薩画像集 平安時代・12世紀
京都・仁和寺 〔展示:9/14~10/14〕

特別展 文明の十字路口

バーミヤン大仏の太陽神と弥勒信仰

—ガンダーラから日本へ—

展覧会広報用画像について

展覧会の広報用貸出画像データ／読者プレゼント招待券をご希望される方は、下記ご確認の上お申し込みください。

- * 画像は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。展覧会終了後の利用、また二次利用はお断りしております。
- * 画像掲載にあたっては、【記載クレジット】を必ずご記載ください。
- * Webサイトで掲載の場合は、必ず画像にコピーガードをかけてください。
- * 読者プレゼントの際には作品画像を掲載し、展覧会会期中にご紹介ください。またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴社、貴編集部にてお願いいたします。
- * ご掲載紙・誌等は広報事務局までご送付ください。

[貸出画像リスト] 作品掲載にあたっては下記の情報をご明記ください

図3	バーミヤン東大仏龕天井壁画 描き起こし図(部分) 宮治昭監修・正垣雅子筆	2022年	龍谷ミュージアム
図5	スーリヤ柱頭	2~3世紀	平山郁夫シルクロード美術館
図6	スーリヤ像	4~6世紀	龍谷ミュージアム
図7	奉獻小塔	2~3世紀	平山郁夫シルクロード美術館
図8	弥勒菩薩交脚像	2~3世紀	平山郁夫シルクロード美術館
図11	重要文化財 弥勒菩薩半跏像	白鳳時代・天智5年(666)	大阪・野中寺
図15	弥勒菩薩立像	鎌倉時代・13世紀	
図19	妙法蓮華経 巻第七	上元3年(676)	三井記念美術館
読者招待券	5組10枚まで受付	※申し込み受付は	2024年9月13日まで

お申し込み方法

当館ホームページ「プレスの方へ」ページの申込フォームに必要事項を入力し、お申し込みください。

入力いただいたアドレスに広報事務局よりメールをお送りします。



三井記念美術館ホームページ「プレスの方へ」ページ
<https://www.mitsui-museum.jp/press/press.html>

プレス関係の方からの
お問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当:富樫、大原、松井 TEL:03-6275-0243 / 080-5443-1112
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-41 神保町SF1ビル206 E-mail:mitsui@annex-inc.jp